

(日文)

日本語教師の実習を終えて感じたこと

姫路獨協大学 太田垣 良孝

この学校には職業高校や一般高校を卒業された高校生が入学してきます。どのような教え方をされるのか興味津々でした。1年生はチームティーチングを行っており、文型導入・会話・聴解・発音の4分野を教師の素晴らしい連携プレーで授業をなさっていました。その4分野でのチームティーチングはこの学校の特徴でもあります。斬新で学生のことを考えられた効果的な教授法でもあります。

今回は日本語教師実習生として1年生の会話担当の先生にご指導いただきました。教科書は、かの有名な『みんなの日本語』の4冊です。(日本での出版の教科書2冊を台湾で編集され4冊になりました。)まず、文型の導入と練習を1年生のクラス60人全員に行われ、翌日、半分の30人ずつのクラス(AクラスとBクラス)に分けられ、会話の授業をしていました。週に2課導入され、その後一回復習が入り、1学期(18週間)トータルで20課進むことで、台湾の大学の中では結構速いペースだと聞いています。しかし、チームティーチングを組む教師の間ではしっかりコミュニケーションがなされていて、それぞれの授業に創意工夫が見られ、2時間連続の授業でも学生たちは休みなしで飽きずに一生懸命勉強している姿が印象的でした。学生たちは毎日単語の暗記、会話練習、シャドーイングの練習などに追われ、大変でしたが、しっかりと築かれた教師たちとの信頼関係のもと、初級日本語の基礎がしっかりと叩き込まれているため、学生たちはテストなどを苦だと思わず、楽しんでやっていました。その姿には感心させられるものがありました。また、学生のモチベーションも高く、教師の熱意が伝わっているようすでした。

今回、実習を通して、教師たちの連携プレーのすばらしさ、学生の日本語学習の強い意欲を感じました。ぜひこの大学で日本語を勉強することをお勧めします。

2011年4月8日

(中文)

日語教師實習心得

姫路獨協大學 太田垣 良孝

這所學校招收的學生為職業高中及一般普通高中的畢業生。我對於教師們會用什麼教學方法來授課非常感興趣。一年級採取團隊教學，教師們將句型導入、會話、聽力、發音四種課程，用一種合作無間的協同教學方式來進行授課。以這種團隊教學的方式來授課也可以說是這所學校的教學特色。這也是一種新穎且以學生立場來思考的有效教學方法。

此次來到這所學校當日語教師實習生，承蒙一年級會話老師多方指導。教科書是使用著名的『大家的日本語』共四冊。(在日本為兩冊，而台灣將之翻譯編輯成四冊)首先，句型的導入及練習是一年級全班 60 名學生一起上課，隔天，再將 60 名學生分為各 30 名學生的小班(A 班及 B 班)，實施小班會話教學。每星期教授 2 課，之後穿插一次複習，1 學期(18 週)總共要上完 20 課，據說這是台灣的大學中授課速度相當快的一所學校。雖說如此，因為團隊教學中的每位老師均能夠充分的溝通，而且也能夠看到老師們的用心及獨特的教學方式，使得學生就算是兩個小時不間斷的課程也能孜孜不倦的學習，這使我印象非常深刻。學生們必須每天背單字、做會話練習及跟讀的練習等，雖然辛苦，但在學生與老師們建立起深厚的信賴關係之下，因學生們初級日語的基礎穩固，所以學生們並不畏懼考試的艱苦，反而樂在其中。這實在是令我非常感動! 此外，也可以感受到學生們的學習動機也非常地高，及教師們的教學熱忱。

透過這次的實習，我深深的感受到老師們合作無間的協同教學，以及學生們對日文強烈的學習意願。我極力的推薦大家務必到此所大學來學習日文。

2011 年 4 月 8 日